

氏の発見、新産地確認などの植物には、次のようなものがある。

ウルップソウは、前記のように1899年白馬岳で確認されているが、カムチャッカ・アラスカなどにも分布するもので、日本内地での最初の確認である。

シロウマアサツキもシベリアから分布するもので、白馬岳は、その分布の南限のものであるという。

ヒメセンブリを1903年南アルプス荒川岳で確認。これも日本での確認の最初である。

ヒナリンドウを1904年八ヶ岳で、矢沢米三郎と共に発見。

牧野富太郎によって *Gentiana pseudo-humilis* Makino と名付けられたが、その後、これは中央アジアなどにある *G. aquatica* L. の隔離分布であるとされている。

ミヤマイチゴツナギも同じ年、早川隆助・矢沢米三郎と共に発見。

ハハコモギ 1909年、木曾駒ヶ岳で確認、日本での最初の確認。

コゴメヒョウタンボク 1912年、南アルプス荒川岳で確認。牧野富太郎によって *Lonicera konoi* Makino と命名されたが、その後の研究によって現在は *L. linderifolia* Maxim. var. *konoi* Okuyama と改められ、ヤブヒョウタンボクの変種とされている。

スルガヒョウタンボク 1913年南アルプス岳の静

岡側の中腹で発見。牧野富太郎によって *Lonicera watanabeana* Makino と命名されたが、その後の研究によって、*L. glehni* Fr. Schm. の学名を持つエゾヒョウタンボクと同じものであるということになっている。なおこの牧野命名の *watanabeana* は、河野がこの植物を諏訪出身の渡辺子爵に贈呈した事実に基づいたものである。

トガクシギク 1916年戸隠山で発見。1921年牧野富太郎が *Chrysanthemum konoanum* Makino と命名しているが、その後の研究によって、これはイワインチンとリュウノウギクとの雑種であるとされている。

河野のこのような高山（植物）研究に多大な影響と援助とを与えたと思われるものに、すぐ上の実兄河野常吉（1862～1930）がある。兄は中央気象台に勤務していて、明治24年（1891）には御岳の山頂および山麓に40余日も滞在して、気象観測に従事し、従来信仰の対象と見られた高山を、すでに学術研究していた人である。

雑誌「信濃教育」昭和14年9月号

杉本順一 長野県植物総目録

横内斎 長野県の植物

長野県文化財保護協会 長野県史蹟名勝天然記念物調査報告書 1～6巻

【植物ニュース】24. トラキチラン *Epipogium aphyllum* (F. W. Schm.) Swartz

本種は温帯から亜寒帯に分布するものであるが、まれにしか見られない。今までに、日光、尾瀬、秩父、八ヶ岳、南アルプス北部で確認されている。昨年の夏、筑摩山脈西側の針葉樹林のやや暗い谷でみることができた。この地は、今までに確認された区域から北西にやや離れている。同定していただいた信大清水建美博士に厚く御礼申し上げます。

（楯 誠治）

25. ゴウシュウアリタソウ *Chenopodium pumilio* R. Br.

松本市石芝路辺で、1977年8月3日採取。アカザ科1年草、アリタソウに似て小形、特異の臭気があり、少しく地に伏す。オーストラリア原産。長野県新記録。（浅川富雄）

26. キバナタカサブロウ *Guizotia abyssinica* (L. f.) Cass.

松本市南松本の路辺やぶ地で、1977年9月23日採取。キク科1年草で、草丈は1m余りもある。

花はクイモより小さい。黄色の舌状花は美しい。葉柄のない楕円形の葉を対生しているのが目立つ。長野県新記録。（浅川富雄）

27. メマツヨイグサ *Oenothera biennis* L.

今までアレチマツヨイグサの和名で扱ってきたものを原色日本帰化植物図鑑に従ってこの際区別したい。これはアレチマツヨイグサに比し次のような相違点がある。

	メマツヨイグサ	アレチマツヨイグサ
茎	紅色を帯び毛著しい 大きい毛の基部は隆起し 紅色のこぶになる	並緑で毛は多くない 隆起しない
葉	鋸歯浅い 上向きに立つ	やや深い 特に下部の葉は垂れる
花	花卉の間にすき間なし 橙黄色 花卉の先の中央のみくぼむ	すき間がある 浅黄色 浅いくぼみが2,3並ぶ

両者の県内の分布は再検の要がある。（浅川富雄）